

一般演題ポスター | 一般演題：一般演題ポスター

**[Poster] 一般演題ポスター 【抄録・スライド】****[P4-01] 治療に難渋した腰部以下が埋もれたクラッシュ症候群の1例**\*藤田 康雄<sup>1</sup>、中畑 潤一<sup>1</sup> (1. 秋田赤十字病院)

クラッシュ症候群はまれな病態で救急現場でも経験が少ない。治療に難渋したクラッシュ症候群を経験した。61歳男性、鉄塔基礎工事作業中に生コンを入れる枠が破損、腰部以下が埋もれた。受傷から1時間後の14時30分酸素投与、15時20分補液を開始、18時40分救出された。病着までの補液量は2500m l、来院時BT30.1°CJCS10、BP:77-54HR:97RR:22SpO2:95%

(O2:10L)pH:6.97,pCO2:43,pO2:116,HCO3:9.9,BE:-21.5,UN:15.0,Cr:1.45,Na:145,K:4.1,Cl:101,CK:12583,PTINR:2.03,D-D:341。両側多発肋骨骨折、血気胸、骨盤輪骨折を認め、直ちに気管挿管、両側胸腔ドレナージ、CHDFを開始した。CK値ピーク96055、Cr値ピーク6.93であった。14病日人工呼吸器離脱、22病日HD離脱した。当初の2日間は4000ml/日の補液を行ったが3病日以降補液を減量した。この補液の不足が腎排泄能の回復を遅らせた可能性がある。